

五千人に食べ物を与える（ヨハネ 6章 01～15節）

様々な解釈

- モーセのマナ物語の再現とする解釈
- 靈的に満たされたと解釈し聖餐式（最後の晚餐）との関係でとる解釈
- 各々が食べ物を分け与えたという合理的解釈

12節 人々が満腹

エリシャも僅かの食物で百人が食べて残すと預言し、その通りになった。
（列王記下 4：42-44）
イエスの場合は5千人なので、イエスはエリシャ以上だった事を示唆。

13節 十二の籠

イスラエルの12部族を象徴
「残ったパン屑を集める」 → 異邦諸民族の招集を象徴
「いっぱいになる」 → 異邦人への宣教によって神の民の数が満ちることを象徴。

14節 世に来られる預言者

モーセの「預言の成就」預言者を立てる約束（申命記 18:15-22）を示唆
神の直接支配を実現するメシアを待ち望んでいた。

15節 自分を王とするために、むりやりに連れて行こうとしているのを知って

共観福音書では触れられていない。この集合は異教の支配者ローマ打倒の為の決起であり、イエスをメシア運動（政治的な指導者「王」をたてて神の直接支配を実現）に巻き込む思惑があった。

魚の原語

ἰχθύς 共観福音書ではこの単語（魚、初期キリスト教のシンボル）
ὀψάριον ヨハネによる福音書ではこの単語（煮魚など、調理された魚）
※ クリスマンフィッシュ 別紙参照

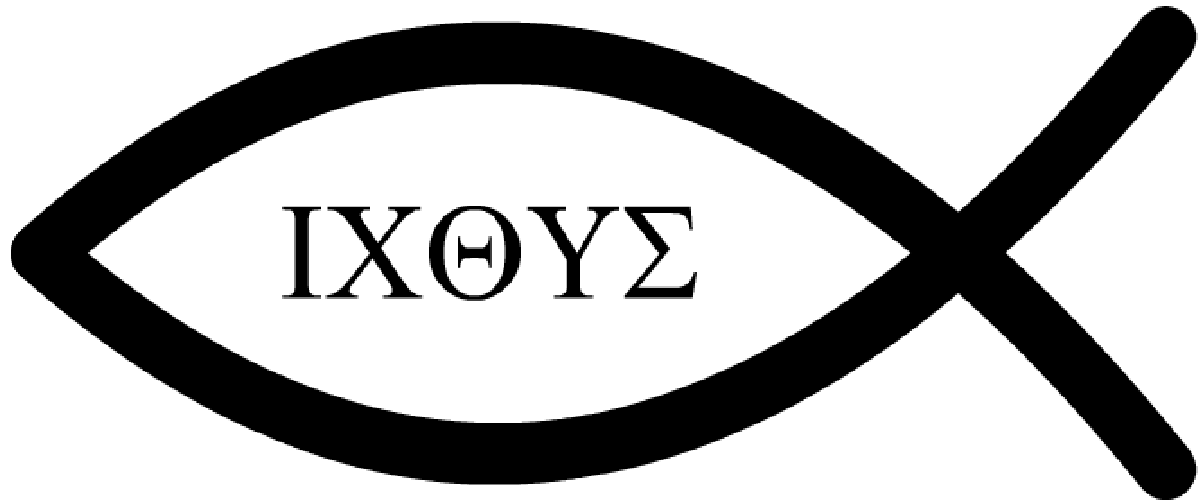
フィリポとアンデレ

フィリポとアンデレは、共観福音書には名前だけしか出てこない。
しかし、ヨハネによる福音書では、重要な役割が記述されている。
アンデレ ペトロをイエスに引き合わせる（ヨハネ 1:41）
フィリポ ナタナエルトをイエスに引き合わせる（ヨハネ 1:43-51）
他に両名が出てくる箇所は（ヨハネ 12:20-26）

ガリラヤとティベリアス（1節）

ガリラヤ（ギリシャ語風）。ティベリアス（ローマ風）
ティベリアスの表記はヨハネによる福音書だけ（他は、ヨハネ 6:23、21:1）
「海」と「湖」は同じギリシャ語 **θάλασσα** 当時は海と認識されていた

クリスチャン・フィッシュ



ἰχθῦς はギリシャ語で魚の意味

Ἰησοῦς	イエス
Χριστός	キリスト
Θεοῦ	神の (θεός の属格)
Υἱός	子 (息子)
Σωτήρ	救い主

の頭文字を並べたものとも取れる

初期のキリスト教徒の隠れシンボル

当時、迫害されていたクリスチャンは信徒同士の合言葉の様に使われていた

- 魚を欲しがるのに、蛇を与えるだろうか。(マタイ 7:10)
- 今から後、あなたは人間をとる漁師になる。(ルカ 5:10)
- 魚を取って口を開けると、銀貨が一枚見つかるはずだ。(マタイ 17:27)
- 5000人 (4000人) 食べ物を与える

マタイ 14 : 15~21、15 : 32~38

マルコ 6 : 35~44、8 : 1~9

ルカ 9 : 12~17

ヨハネ 6 : 5~13